



2012 J.League Division2

第16節 ヴァンフォーレ甲府 戦

5/27 (日) 19:00~

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

F C岐阜大好き通信 (岐大通)

5/2号

編集発行: 『岐大通』製作委員会

今号の製作担当:

ささたく & 吉田鑄造

today's guest: ヴァンフォーレ甲府 2011 J1 9勝6分1敗 勝ち点33第16位

甲府第一高校のOBチームとして1963年に創設された『甲府サッカークラブ』は、1967年から始まった日本サッカーリーグ (JSL) 2部の創設メンバーで、39年もの間に一度もトップリーグに昇格することはなかったが全国リーグから陥落することもしなかった。J2参加後もしばらく低迷を続け存続の危機を迎えたが、新社長就任を機に攻勢に転じて成績も上昇。2005年にはJ2で3位となりJ1・16位の柏との入替戦を2連勝で制し、初の『1部昇格』を果たす。J1に2年間在籍し、2008年は再びJ2。2011年に再びJ1昇格を果たすが、1年でJ2降格。2009年の途中からFC岐阜よりFW片桐淳至が移籍。(吉田鑄造)

5/13ホーム松本戦、5/20アウェイ山形戦を連敗してしまい、最下位を抜け出せないFC岐阜。幸いなこと(?)に、下位チームが軒並み勝ち点を積み上げられず、18位までが勝ち点3差内に入っている。降格圏脱出のためにも、そして入場者数増加のためにも、そろそろホーム長良川での勝利が欲しいところだ。ホームでは4/15ギラヴァンツ北九州戦以来、勝利がなく(というか、これのみ)、岐阜サポは1ヶ月以上もホームでの勝利に飢えているのだ。

とはいえ、成績低迷の主な理由であり、チーム最大の問題点である決定力不足は、残念ながら未だに解消されていない。15試合で7得点はJ2チームで最低。失点数は他チームとそれほど見劣りしないことを考えれば、得点力の向上が成績アップの必須条件だ。最近の試合では#2中島、#26阪本らがベンチ入りして攻撃陣の活性化を図っている。また、前節山形戦では敗戦したものの、#18左藤がPKを獲得し、1得点を挙げた。今節、ゴールを決めてくれる選手は、そして勝利を導いてくれる選手は誰なのだろうか。

さて、今節の対戦相手である甲府は現在7位。しかし、#11FWダヴィは今季14得点(つまり岐阜の総得点より多い)を挙げており、現在J2得点王。彼を岐阜のDF陣がいかにして止め切れるのかが勝利の大事なポイントだろう。また、甲府には岐阜工出身の#1 GK荻晃太、そしてかつてFC岐阜の#10を背負った男・#8片桐淳至(06~09)が在籍している。前回ホームで対戦した2010年には、その片桐に決勝点を決められた悔しい敗戦だった。「今度こそは岐阜が勝利を」と思っているサポーターも多い。また、J通算50試合を達成している「ただ2人のJリーガー」岐阜#6MF服部年宏と、甲府#2MF伊東輝悦の“2人の鉄人対決”の実現にも注目だ。(ささたく)

2012J2 順位表 第15節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 岐阜から見て)

1	山形	33p	+8	22	14	A●
2	京都	31p	+10	23	13	H●
3	千葉	30p	+18	26	8	
4	湘南	29p	+9	28	19	A●
5	東京V	28p	+13	26	13	
6	大分	28p	+10	23	13	H●
7	甲府	26p	+6	19	13	
8	岡山	25p	+2	13	11	A○
9	水戸	24p	+2	14	12	H●
10	愛媛	23p	+9	23	14	
11	栃木	22p	+3	17	14	A△
12	福岡	20p	+2	22	20	
13	北九州	20p	+3	16	13	H○
14	横浜FC	18p	-2	18	20	H●
15	松本	18p	-6	9	15	H●
16	徳島	15p	-7	13	20	A●
17	鳥取	14p	-17	11	28	H△
18	草津	12p	-11	10	21	H△
	熊本	12p	-11	10	21	A●
20	町田	11p	-12	14	26	
21	富山	10p	-9	13	22	A●
22	岐阜	9p	-14	7	21	==



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・

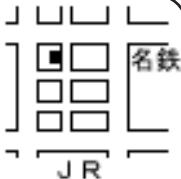
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

「いらっしやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休: 日曜日 (今日はお休みです)



FC岐阜の経営危機打開に向けた動きについて。

●5月23日に経営危機に陥っているチームについて、自治体や県内財界の代表による話し合いが行われた。近々に資金ショートになる可能性があるとの情報もあり、予断を許さない状況になっている。ただこの件についての話し合いのテーブルが出来た事と、話し合いの場で「存続するためオール岐阜で支援する必要性で一致した(新聞記事のまま)」事については前進だと捉えたい。一方、私達に出来る事は何だろうか?やはり協力してくれている企業様にお金を出す事についてメリットを感じて貰える様に行動する事と周囲を競技場に誘うことじゃないだろうか?(後、宝くじを買うこと?苦笑)
折角岐阜の地に生まれたこのチームをこんな短期間で潰えさせないように、自分に出来る事をして行きましょう。(ヤックル)

◇『岐大通』バックナンバーのお知らせ

すべてのバックナンバーを「吉田鑄造総合研究所」でpdfファイルを公開しています。配布時はA3サイズだったものも、こちらではご自宅などで印刷しやすいよう、すべてA4サイズに修正いたしました。下記アドレスをご参照ください。

<http://www.cyic.co.uk/fcgifu/gidaidohri.html>

投稿募集!

gidaidohri@hotmail.co.jp

次回 HomeGame

第18節 愛媛FC戦

6/9 (土) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

【第14節】岐阜 0-1 松本

●悔しかった。ここ最近で一番悔しい敗戦だった様な気がする。（かつて岐阜に在籍した選手も多い等、いろいろな理由で）「個人的に負けたくないチーム」ランクの上位にいるチームに負けたことが悔しかった。ウチのホーム戦だというのに、序盤は良かったものの徐々に試合を支配され、得点を奪うこともできずに負けたことが悔しかった。そして、（いわゆる声出しサポとしては）大人数でホームジャックした松本サポを勝利で喜ばせてしまったことが、とても悔しかった。

本当に選手たちは分かっていたのだろうか？この試合が（更に言うならば、その前のホーム水戸戦も）、本当に「勝たなければならない試合」だったことを。最下位に沈んでいる順位を上げるためには、今年Jに初めて参入してきた隣県（しかもチームカラーが同じ緑で、全国的にも注目されている）チームをホームできちんと叩いておかねばならなかったことを。（毎年の風物詩のようで残念だけれど）経営危機を迎えているクラブの状況を改善するためには、まずは5000人を超える観客（そのうち1000人近くが松本サポだったようだ）の前で勝利して、リピーターを少しずつでも増やすことが必要なことを。そして、そういった積み重ねが支援の輪を広げていき、スポンサーの獲得や、自分たちの待遇の改善にも繋がっていくということ。（更に言うならば、今節は岐阜県サッカー協会が傘下の各チームに来場を呼びかけていたし、スカパー！の番組では長良川からの中継と、勝者側の出演が決まっていた。）そして、クラブ（フロント）は、こういったことを、ちゃんと選手に伝えているのだろうか？正直、疑問に思う。もちろん、「フロントの営業と、チームの成績は別物」あるいは「クラブの経営不振が選手のプレッシャーになってはいけない」という考えがあるのも判る。しかし、FC岐阜の選手は、（本当に選手には申し訳ないのだけれど）そんな事ではダメで、そういったものも背負った上で、たくましいメンタルで試合に臨んで欲しいと思う。僕はスタジアムグルメもクラブが毎回趣向を凝らしたイベントも大好きだし、チームが負けてもスタジアムに足を運ぶサポーターの1人だけれど、しかし、やはりJリーグは「プロの興業」なのだから、勝たなければ、少なくとも、負けても「また来よう」と思える試合（それは、得点することであったり、最後までひたむきに走り戦う姿勢が見える試合だと思う）をしなければ、観客は、そして収入は増えていかないと思う。それはウチの今年の成績と収入実績を見ても明らかだ。

それにしても、反町監督ってのは、FC岐阜が嫌いなのかな？それとも常に「敗者の傷口に塩を塗る」コメントをするのかな？去年は湘南の監督として1-7でタコ殴りにしておいて「試合内容は良くなかった。岐阜の方が良かった」などとのもたっていたんだけど、今年は試合終了間際に（ここまでほとんど試合に出場していなかった）北村隆二を「顔見世興行」的に出した上に、「前半は0-3で岐阜が勝っていた」などとコメントしていただいて…ぐざぎ（歯ざり）。このリベンジは、アウェイ松本アルウィンで晴らす！（ささたく）

●この試合の収穫は、エルゴラの『ハット500試合出場記念号外』をもらったこと。それくらいかな……。というくらい残念な結果。J2に残留することを考えれば、順位的にも松本には是が非でも勝ちたい。勝ち点3を取りたい。そんな意識が闘志となったか、前半はウチが主導権を握り、平のバー直撃のシュートというあわやのシーンもあったのだが、なんでもない場面をカルい守備からスキを衝かれて失点すると、そこから先は途端に気力と思考力が薄くなったかのような展開が続く。今季も三分の一が過ぎたが、その中に充満しつつある先制された後の逆転勝利への期待感の薄れ。イイ流れを作れて

いても、先に失点してしまうと逆転どころか同点に追いつく絵まで描けなくなってしまうのだろうか？ピッチ内の選手間の意志の疎通はできているのだろうか？確実なトラップや丁寧なパスという当然やるべきことができていないような気がする。相手GKとかからのロングキックを味方につなげることなく適当にヘディングしたり、フリーなのにトラップを焦って相手にボールを渡したりしているように見えるのは気のせいかな？これでは、監督がどんなに戦術戦略を考え伝えたとしても意味がない。この試合のアディショナルタイム突入直前最後の交代枠で野垣内を入れた。前線に関田を上げての「大作戦」、つまりロングボールを放り込んで関田に当てるやり方を敢行するためだ。今季のここまでの試合でボクは何度か「大作戦やらないのか？」と思うことがあったが、監督はこの戦術を取らなかった。やろうとしているサッカーを貫くために、敢えてそうしなかったとボクは思っている。そして、その封印？していた戦術をこの松本戦でやってきた。それは「少なくとも勝ち点1を取る。取らなきゃいけない試合だ。」と考えたからではないだろうか？もちろん、独断と偏見なので思いっきり的外れな考えかもしれない。負けていい試合など一つとしてないが、監督の意志は見て取れたように思う。後は選手達がどう反応するかなのだが……。

日曜のナイトゲームにもかかわらず、千人余の松本サポーターが来てくれた。入場料収入に貢献していただいたことに素直に感謝する。聞くところによるとアツイ応援だったらしい。自分のことで精一杯だったのでどんな様子だったか見ていなかったし、声も試合中は聞こえなかったが、もともと松本の応援のことは聞いている。わざわざアウェイまで来るサポーターだから、さもありなんというところか。それじゃあいったい、アルウィンではどうなるのか？9月の対戦が楽しみだ。

それから、松本の監督さん。湘南のときもそうだったが、どうしてそう火に油というか、傷口に塩を塗りこんだ上に唐辛子で塞ぐようなことを言いますかね（苦笑）もうね、このヒトは不倶戴天の敵に認定。この人物が率いるチームにだけは負けたくない。この試合は負けたけど、ヘコんでいるヒマはない。次に合い見える時にはぶっつぶす！そんな闘志を掻き立ててくれる監督さんです。早く来ないかなあ、松本戦（笑）。

（ぐん、）

●気がつけば（というか「気がつきたくなかったのだけ」が正確な表現だ）、今シーズンのリーグ戦も既に3分の1を消化してしまった。FC岐阜は勝ち点9。1試合あたりの勝ち点は0.60に過ぎず、これは圧倒的最下位の屈辱を味わった去年の0.63を実は下回っている。今シーズンのこれまではリーグ上位とばかりに対戦していたというわけではないのだから、これは結構困った状況なのだけ、さらに困った状況なのは「やっているサッカーそのものは昨年より圧倒的にいい」という点だ。

『内容がいいのに結果が出ない』。普通に考えると「何かのキッカケで一気に好転する」という希望的観測も可能だけど、ぼくにはそうは思えない。あえて言えば「内容はいいけど結果が出ないサッカーをやっている」のが今年のFC岐阜だ、という表現も出来る。

行徳監督は、別の試合後の記者会見で「内容は間違いなくよくなっている」と答えた。事実、そうだろう。でもぼくはそれを前向きに聞くことが出来ない。10試合以上をこなして一向に内容がよくなるのは去年のFC岐阜くらいなものだ。他のチームもそれだけ試合をこなせば内容はよくなるに決まっている。“FC岐阜がよくなる速度”より“相手がよくなる速度”が速ければ、その差は開くだけ。松本戦もその延長上にある、いかにも今年のFC岐阜らしい負け方だった。内容は悪くはない（あくまで「昨年と比

【第1節】山形2-1岐阜

較して」だが）。チャンスの入口までは作れる。しかし、その先の攻撃に『恐さ』がまったくない。“チャンス”を“決定機”に昇格させる崩し出来る選手がいないから、“チャンス”で終わる。これまで結果が出ていない部分の『怯え』からか、選手は“仕掛け”に出ない。そんな『おとなしいサッカー』で、対戦相手が恐怖を感じてくれるはずもない。

松本の反町監督が試合後の記者会見で「岐阜の良さが出た試合だった」と語ったのは、岐阜サポーターからすると彼には昨年の『前科』がある（昨年は湘南ベルマーレの監督だった反町氏は、7-1で岐阜を粉砕した試合後の記者会見で「岐阜の方がいいサッカーをしていた」と話して岐阜サポーターの沸点を大いに下げた）ので「俺達をコケにするのもいい加減にしろ!」と怒る部分でもあるし、ぼくもさらに沸点が下がった（苦笑）のだけど、反町監督が暗に指摘していると思われる「いいサッカーだから勝てるわけではない」という部分には共感出来る。

松本戦でただ一つだけ評価出来たのは、試合終了直前に行徳監督が中盤を下げてC Bに野垣内を入れて長身のC B関田を前線に上げたことだった。それは、一部サッカーファンの中では『大作戦』と呼ばれている戦法で、ロングボールをぶつけてそのこぼれを狙うという、「いいサッカー」の対極、真逆にあるなやり方。でも、とにかく得点のニオイすらない状況で「火のないところに煙を立てよう」という戦い方を監督は選んだ。これまでは採らなかつた戦い方を使ってまで、貪欲に勝ち点を得ようとした。評価出来たのは、そこだけ。

経営危機がニュースに上がるF C岐阜。長良川にやって来る観客の皆さんに「また来よう」「また来たいね」と思ってもらうには、そう思ってもらうだけのサッカーを提示しなければならない。それは、決して「内容はいいけど結果が出ないサッカー」ではないはずだ。（吉田铸造）

【ユース】がんばってます！

●我らがF C岐阜ユースU-18（以下岐阜ユース）は、2週間の間にG2リーグ1試合とクラブユース選手権1次予選（以下：クラブ）2試合の計3試合の公式戦をこなしました。

5/12【G2】東濃実業戦 2対1で○

5/13【クラブ】HONDA FC戦 1対1で△

5/20【クラブ】FC ERIDIC戦 10対0で○

Honda FCとの試合はグリーンズ仲間と一緒に観戦に行ってきましたが、前半18分に相手の見事な連係プレーで守備が崩され先制をされますが、前半35分に同点に追い付き、その後も一進一退の戦いぶりで強豪Honda FC相手に引き分けとなりました。この結果、クラブユース選手権では1次予選を3位通過となり、見事2次予選トーナメントへの進出が決まりました（拍手）。

クラブユース選手権の2次予選の初戦は5/27（日）に磐田市の「ゆめりあ」でHonda FCと対戦があります。そしてこれを勝ち抜くと6月3日（日）に同じ「ゆめりあ」で名古屋グランパスユースとの対戦となります。是非Honda FCとグランパスに勝利して全国大会に進んで欲しいです!!

一方のG2リーグは6/9（土）に大垣工業Bとの対戦があります。

初の全国大会目指して頑張れよ！

FORZA! FC岐阜ユース!!

（シュナ）

●東北だというのに、（もちろん岐阜ほどではないけど）山形は暑かった…多治見が塗り替えるまで、最高気温の日本記録を持っていたというのも納得な天候の中での13時キックオフ。山形は昨年J1で現在1位、9戦不敗のチームだけれど、ウチとの対戦成績は2勝1敗。しかも、山形のNDスタはF C岐阜がJ初勝利を挙げた縁起の良いスタジアム。日程も日曜のデーゲームと遠征には都合が良かったので、「あの感動を再び」とばかり（僕も含めて）意外と多くの岐阜サポが集まった。

さて、試合は…うーん…言いたくはないけれど、今節も「前半は良かった」。山形がロングボール主体の組み立てをしてきたので、C B関田と野垣内が身体を張ってボールを跳ね返し、そのセカンドボールを拾って岐阜の流れで試合を進めることができていた。なかなか山形の守備を崩すことは出来なかったけれど、前半40分には#18光一がPA内で倒されてPKを獲得し、これを自ら決めて先制し、前半終了。シュート数は岐阜7本・山形1本…とくれば、普通なら格段に良い前半の終わり方なんだけど、僕は「これはハンデ戦だな」と感じていた。そして、残念ながらその悪い予感の的中してしまった。失点したことでハーフタイムに修正してきた山形は、走るサッカーに切り替えてきた。すると、足が速くないウチのDF陣は徐々に手こずるようになり、後半1分に縦パス1本で左サイドを切り裂かれ、中央に折り返したボールを（ウチのDFを振り切った）FW#18萬代が押し込んでゴール…録画で確認したら、縦パスが出た時点でゴール前に走り込んでいる選手は3対2（しかもマークを外されている）なんで、そりゃ決められるわ…（溜息）。しかし相手は1位なんだし、ここからまた盛り返していけば良かったのに、選手の足が止まってしまった（ように感じた）。そして、後半19分の「あの」野垣内のプレー…（溜息）。最終ラインでボールを奪われ、かつPA内で腕を使って引き倒したら、前半の洗一のPKだって似たようなプレーで獲ったんだもの、そりゃ獲られるわ…（溜息）。致命的なミス2連発で、あまりにも勿体ない逆転のされ方。これで（後から振り返ると）試合は決した。後半のシュート数は岐阜3本に対し、山形は15本（!）。もっと失点しても不思議ではなかった。

実に勿体ない敗戦だったが、それ以上に気になったのが、後半になると、多くのウチの選手たちの足が止まってしまったことだ。確かに岐阜の選手には厳しいコンディションだったと思うが、しかし、試合終了の笛を聞いてピッチにしゃがみ込んだのは、山形の選手の方が多かった（と僕は感じた）。やはり、走って結果がついてきているチームと、そうでないチームの違いなのか…。けれど、（残念ながら）個々の選手的能力では劣るウチが勝つためには、まずは走り負けないことが重要なはずだ。そのためには、もっと走り込まないとダメだと思うし、あるいは（スタッフが不足しているのであれば）疲労の回復方法や、体力をつける栄養管理方法などを（やってると思うんだけど、更に）選手に教えて実践させることが必要なのでは…そんなことを強く感じた。たとえ練習場が確保できなくても、あるいは自主練でもやれるはずだから、（得点力不足も問題だけど）もっと真剣にチーム全体で取り組んで欲しいと思う。もちろんメンタル面では、僕らサポーターの声で選手の背中を後押しすることが（ほんの僅かではあるが）可能ではないかと思う。そう信じて、僕らは僕らのやれることを、今後も続けていきたい。

（ささたく）

裏面にも山形戦の続きがあります。→→→

(山形戦：つづき)

●4年ぶりのNDノストスタジアム。アウェイ側ゴール裏は、スタンドもスタンド裏もほとんど変わってなくて少しばかりあの時の感慨に浸ってしまう。それでも、当時と大きく違っているところはいくつもあって、まず山形サポの数にびっくりさせられた。あとで確認してみたら、前回の入場者数は5千人強で今回は8千人。印象ほど差がなかったともいえるが、それは山形サポのほとんどがレブユニを着ていたからかもしれない。それとスタジアム横の駐車場。このスタジアムは「べにばなスポーツパーク」という県営の施設の中にあり、他競技の利用者もいるわけだが、前回来た時にはただの空き地だった駐車場がきちんと舗装されていた上に区画を示すラインも引かれ、さらには位置を表す標識まで設置されていた。旧知の山形サポさんによると、駐車台数も6千に増えたとのこと。また、駐車場横には優先的に利用している練習用グラウンドがあり、そこには見学のスタンドもある。これもJ1効果かな？と述べておられたが、いやはや実にうらやましい話だ。積み重ねてきた歴史が違うとはいえ、苦しい時期もあったわけだし、現在も特に裕福とは言えない状況の中でこれだけ活性化している姿を見るとヘコんでばかりもいられない、一日も早く追いつき追い越せという気にもさせられた。

ということで、試合の話も少し(笑)。前半のシュートが1本という数字が示すように、山形は著しく精彩を欠いていた。ハーフタイムには「暑さも考慮に入れての後半勝負に徹したのかな？」と考えていたが、試合後のコメントによると、いつもとは違いロングボールを主体とした攻撃にシフトしていたため全体的に戸惑いがあったらしい。ロングボールというと、前節・松本戦後に行徳監督が「ロングボール主体のチームにはてこずるようだ。」的な発言をしていたが、山形の監督はさっそくそれを実行したのかな？試合は、前節が終了した直後から始まっているということか。恐ろしいほどの情報戦だ。ただ、その戦法が実はこの日のCBコンビ野垣内・関田には有利に働いたのではないかな。秀人のケガでスタメンに起用された野垣内はハイボールには強さを発揮する。山形のFWとは10センチほど身長差がありミスマッチかとも思われたが、懸命にこらえてくれていた。

しかし、後半になると山形は戦術を変更してきたため徐々に対応ができなくなってしまった。慣れない戦術でも指揮官の意図どおりにこなし、試合途中の戦術変更にも対応できる。それをスタメンだけでなくサブの選手もこなせるあたりがJ1で3年もまれた経験というかしたたかさというか、山形が首位に立っていてホームで10戦負けなしという強さが際立つだけの試合になってしまった。同点にされた場面ではアシストとなった右サイドからのクロスもよかったが、その瞬間にゴール前に詰める選手が3~4人。オフサイドの掛け損ないもあったのか、岐阜のDFがアツという間に置いていかれたしまったし、さらにクロスを入れた選手へのスルーパスがこれまた見事という印象。シュートを含めた3本がいずれもワンタッチというのも、悔しいというかあっぱれというか……。

そして、決勝点を奪われた場面。多くを言いたくないが、やはり90分間集中して戦わないと勝利はおぼつかない。難しいことだけど、プロとしてそれはやりきってもらわないと。さらに、ボールを奪われたあとでも対応によっては致命傷を受けることもなかったのではないかな。そんな気がする。まあ、それは本人が一番理解していると思う。高い授業料となったが今後の試合に活かしてほしい。選手全員にお願いする。(ぐん、)

●せっかく先制したのに、逆転負け。2失点とも勿体ない点の取られ方だったなあ。前半はそれでも良かった。中盤でボールが拾えてゲームを支配することができていた。そんな中でPKを得て先制。向こう側サイドだったんでどんな感じか分からなかったが録画で見返すとユニフォーム

を引っ張られて倒されてるので、妥当な判定か。そんな中で迎えた後半だったが、山形はガラリと戦い方を変えてきた。縦へのスルーパスが多く入るようになり、スピードもUP。まさにギアを一段上げてきた感じで、ウチの選手が対応できなくなってしまった。1失点目は早い動きにDFラインがついていけず、クロス入れられて真ん中でフリーだったら多田だってノーチャンスだろう。さらにいただけないのは2失点目。キーパーからパスを受けて早目にボールを繋げばいいものを、早いプレッシャーに慌ててボールを奪われて挙句の果てにPK献上。やらなくてもよかった1点であることは間違いない。

そんなわけでまた負けてしまったわけだが、試合後の山形・奥野監督の記者会見でのコメントを見て驚いた。前半は通常とは違う攻め方を指示してそれがうまく噛み合わなかったとのこと。じゃあ何か？前半はまるっきりお試しモードだったのか？TMのようなつもりだったのか？ずいぶんと舐められたコメントをされてしまったものだと思うにはいられなかった。帰り道、駅へと向かうシャトルバスの中でも「最下位相手に取りこぼさなくてよかった」だの

「岐阜は安全パイ」みたいなことを山形サポが話してるのが聞こえてきて、悔しくて仕方がなかった。

この先夏に向かっていけば当然今日以上に暑い気候になるわけだが、そんな中相手に走り負けしてはどうにもならない。他チームはシーズン中でも2部練とかやっているようだが、練習場の関係でそれは難しいのであろうか？なぜ勝てないのか、どうしたら勝てるのか、チーム全体で課題を共有していかないと明るい未来は見えてこない。

(岐阜の誇り)

【セカンド】 東海リーグ1部が開幕しました

●FC岐阜セカンド(以下セカンド)は、東海リーグ開幕を2連勝と順調なスタートを切りました。とはいえ、実際のところ内容的にはちょっとイマイチ(苦笑)。開幕の矢崎バレンテ戦は6-2と圧勝でしたが失点の仕方がよくない。2戦目の中京大学FC戦は先制するも2失点で逆転され、再逆転でなんとか勝利しました。

6月には、鈴鹿ランポーレ戦、そしてFC刈谷戦と、おそらく東海1部の優勝争いに大きく影響しそうな2連戦があります。刈谷戦はホーム開催。現在のところ、6月17日

(日)の午後1時から赤坂スポーツ公園(大垣市)で試合開始の予定です。(吉田鑄造)

FC岐阜サポによる ゲリラ的Ustream配信番組

今シーズンからのサポーター発信企画として、基本的にホーム戦の前日に、インターネットの動画共有サービス「ユーストリーム」を利用した手作り感満載の番組を下記アドレスで放送しています。サポーターの『生の声』をお楽しみください。

<http://www.ustream.tv/channel/sstak12-fcgifu>

次回は6/8(金) 21:00開始の予定です。